

令和6年8月4日(日)

## 第11期Bコース研修生 修了式



令和6年8月4日(日)に、第11期Bコースの「修了式・成果発表会」を教職員研修センター視聴覚ホールで挙行了しました。修了生、修了生の保護者、教育庁関係者が列席しました。

### 修了式

研修生は令和4年7月に次世代リーダー育成道場に入校後、国内での事前研修と約10か月のアメリカ合衆国、カナダでの留学生活を経て、修了式を迎えました。

はじめに、81人の研修生一人一人に、東京都教育委員会を代表し、小寺康裕次世代リーダー育成道場道場長より修了証書が授与されました。

修了証書授与後に、小寺道場長から、「皆さんはこの留学を通して、多くの困難を乗り越え、多様な価値観を理解する態度、課題に向き合い、解決していく力、そして、異なる文化的背景をもつ人々と共に生活する上で必要となるコミュニケーション力などを培うことができたでしょう。」「一人一人の成果やそれまでの道のりは異なりますが、全員がそれぞれの目標達成に向けて試行錯誤しながら努力してきたことは、皆さんがこれから踏み出す輝かしい将来への確かな礎となるはずです。このことに自信をもち、今後の学校生活や進路先において、更に成長されることを期待しています。」と、激励の言葉が送られました。

修了生代表の言葉では、「私たち第11期がこのプログラムの研修生となった令和4年、その年はまだ新型コロナウイルス感染症の渦中から抜け出せていない状態が続いていました、当の私自身も、新型コロナウイルス感染症にかかり、入校式には直接参加することができず、オンラインでの参加を余儀なくされたのを今



でもはっきりと覚えています。」「科学技術が発展し、人と人とのつながりがさらに広がり、複雑になっているこの時代だからこそ、何事にも感謝の心を持ち、自分と異なる考えや意見も尊重できるようになることが、新たな人との出会いの場面を作り出し、自分の見識を広げるための何よりの財産なのだと留学生活

を通して学ぶことができました。」「次世代リーダー育成道場で学んだ事前研修、そして約1年間の留学を終えた今、私たちに次に求められていることは、この次世代リーダー育成道場で培った知識、経験を東京都そして日本に還元することです。その方法は人それぞれで、今後の進路、目標もそれぞれだとは思いますが、次世代リーダー育成道場での経験を無駄にすることなく、最大限に生かしていく必要があります。今後は、修了生として、そして将来の日本や東京を担う若者のリーダーとして、それぞれの場所でより良い未来のためにそれぞれがそれぞれの長所を生かして活躍していきます。」と、これからの抱負を述べました。



## 成果発表会

修了式後に行われた成果発表会では、研修生を代表した5人がそれぞれの研修成果や留學生活の様子を発表しました。

### ■英語によるスピーチ（代表者3人）

テーマ： Dancing is My Special Language

What is “Diversity”？

Don’ t Stop Growing

### ■英語によるゼミナール研究発表（代表者1人）

テーマ： The Comparative Study of History Education in Canada and Japan：

Measuring High School Students’ Attitudes about World War II

### ■日本語によるゼミナール研究発表（代表者1人）

テーマ： 日本の宇宙開発における課題と展望～世界との比較から導く新たな方策～

英語によるスピーチでは、留學先で学んだことや感じたことを英語で発表しました。ゼミナール研究発表では、ゼミナール研究の結果を発表しました。留學前と留學中を合わせた約2年間、研修生全員がそれぞれ自分でテーマを決め、研究を進めてきました。ゼミナール研究を通じて学んだことや気付いたことについて、次世代リーダー育成道場修了後も、ぜひ興味をもって学び続けてほしいです。

最後に、アメリカ又はカナダに留學した研修生の代表者が、国ごとに、それぞれの国での学校生活やホームステイの様子、留學中に取り組んできたことなどを、舞台上で報告を行いました。留學での様々な体験を通して自分自身が成長したことがうかがえる内容でした。

代表者のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。

東京都教職員研修センター  
次世代リーダー育成道場担当